

2019年(平成31年)4月10日

アイスピック

小田原市で試験導入

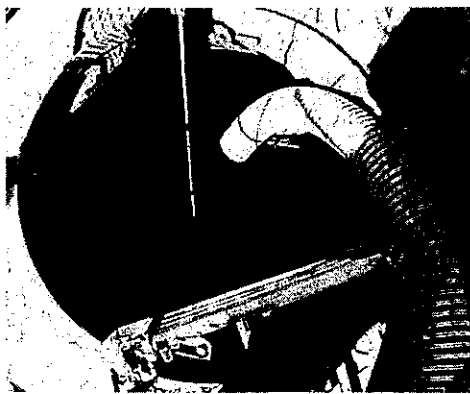
圧送管内夾雑物を効果的除去

小田原市下水道部は、平成30年度小船一号マンホールポンプ圧送管洗浄業務で、アイスピック管内洗浄工法を試験導入した。管内夾雑物の除去能力、管詰まりリスクゼロ、短時間施工という同工法の優位性が確認され、今後の他の管路での

検査を開始した。3月13日の洗浄業務当日には、同市下水道部や水道局職員のほか周辺自治体職員ら30人が視察に訪れ、同工法の作業の流れや圧送管の維持管理手法を学んだ。

現場は同市小船地区内のマンホールポンプ圧送管

路(φ100×188)に管種IIモルタルライニングダクタイル管。平成11年に供用開始し、管内に夾雑物等が附着・堆積している可能性があったため、同市下水道部ではそれら夾雑物の除去(清掃)を目的に洗浄業務を検討していた。



マンホール管口から挿入

なお、今回の洗浄作業は、アイスピック関東地域

新しい技術。水のため管閉塞の恐れもなく、固液双

方の性状を兼ね揃えた優れた洗浄能力が強い。今回の業務では、4・4寸のアイスシャーベツトを用意。上下流マンホール管口に専用器具を取

が回収された。洗浄終了にはアイスシャーベツト本来の無色透明に近い状態で回収されたことから、管内夾雑物の除去効果を確認した。

協会会員
の関東ヒ
ノデサー
ビスが担
当した。
アイス
ピック管内
洗浄工法
は、特殊
アイスシ
ャーベツ
トにより
管内を洗
浄する革
新的技術。水のため管閉塞の恐れもなく、固液双方の性状を兼ね揃えた優れた洗浄能力が強い。今回の業務では、4・4寸のアイスシャーベツトを用意。上下流マンホール管口に専用器具を取付けた後、下流側マンホールからアイスシャーベツトを注入。圧力を確認しつつ、計3回に分けて注入し、管内でのアイスピックの形成を確認した後、流水で押し流し管内を清掃した。上流側マンホール(回収口)では茶色に変色したアイスピック

アイスピック管内洗浄工法の普及に取り組んでいるアイスピック研究会では、夾雑物の除去による流量回復・管閉塞リスクの解消のみならず、腐食環境の改善などの用途で同工法の活用を積極的に呼びかけている。